

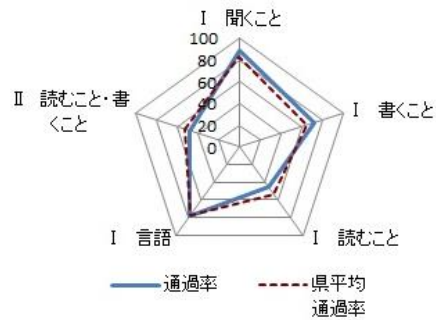
# 指導方法等の改善計画について〔国語科〕

東広島市立板城西小学校

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 68.6 %, 県 68 %)

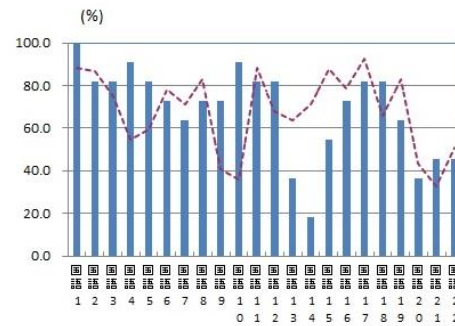
領域別平均通過率

領域別平均通過率(国語)



設問ごとの平均通過率

設問ごとの平均通過率(国語)



本年度の結果について

○全体的な傾向について  
 国語の結果において、タイプⅠは73.2%、タイプⅡは47.7%の通過率となっている。県平均と比べると、基礎的・基本的な内容については概ね定着していると考えられるが、「読むこと」の領域に課題が見られた。また基礎・活用とも、「文章の構成」を考える設問での通過率が低かった。

○昨年度の課題への取組と成果(課題)  
 昨年度は「読むこと」「書くこと」の領域で、情報を取り出すことや取り出した情報を関連付けて記述することに大きな課題があった。書く活動を多く取り入れることで、記述することにはかなり抵抗がなくなっている。

## 重点課題

【課題1】タイプⅠの「読むこと」の領域で、叙述をもとに登場人物の気持ちを想像したり、想像したことを自分の言葉で記述したりすることができない児童が多かった。  
 (通過率18.2% 誤答率45.5% 無答率36.4%)

【課題2】タイプⅠの「書くこと」の領域で、文章の構成について理解できていない児童が多かった。  
 (通過率54.5% 誤答率45.5%)

## 重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

【課題1】  
 「読むこと」の指導において、まず読む機会を多く設け、文章を読む力をつけていく。登場人物の気持ちがわかる表現を見つける学習だけにとどまらず、心情曲線等に表すことで心の動きをつかませていく。また、読み取った心情を、明らかにしながら、自分の言葉で記述していく学習に多く取り組ませる。

【課題2】  
 意見文の構成をしっかりとつかませるために、様々な意見文に出会う機会を設ける。また学習した意見文を参考にして自分の意見文を書くことを通して、文章構成をつかませる。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		2～6年 単元テスト			5・6年年 フォローアップシート	4年 H28 基礎・基本	4年 H29 基礎・基本
目標値		80.0%			80.0%	85.0%	85.0%
実施後数値							

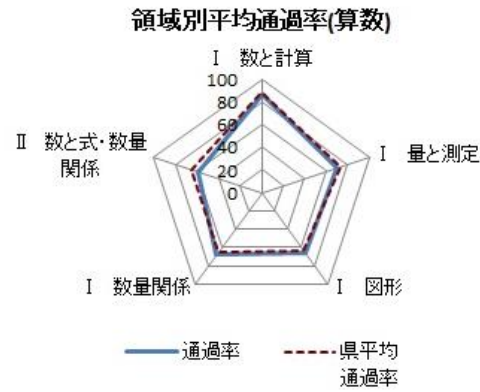
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				1～6年 単元テスト	5・6年年 フォローアップシート	4年 H28 基礎・基本	4年 H29 基礎・基本
目標値				80.0%	80.0%	85.0%	85.0%
実施後数値							

# 指導方法等の改善計画について [算数科]

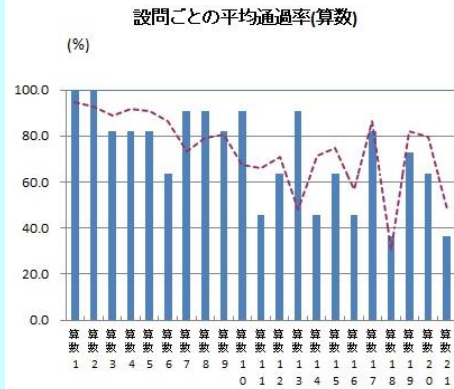
東広島市立板城西小学校

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 71.9%, 県 74.3%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

- 全体的な傾向について  
算数の結果において、タイプⅠは76.1%、タイプⅡは58.2%の通過率となっている。県平均と比べると、基礎的・基本的な内容、また活用力どちらも課題が多い。どの領域にも通過率が低い設問がある。また、読み取ったことを根拠にして理由を言葉で記述することにも苦手意識がある。
- 昨年度の課題への取組と成果 (課題)  
昨年度は計算結果の見積もり問題の通過率が低かった。算数用語をしっかりと理解させ使い分けを体験させることに取り組み、今年度は通過率が大きくアップした。しかし「図形」の領域では、図形の定義や性質について今年度も理解が不十分である。

## 重点課題

### 【課題1】

タイプⅠの「図形」の領域で、平行四辺形の作図の方法は、平行四辺形のどの特徴を使っているものかつかめていない児童が多かった。(通過率45.5% 誤答率54.5%)

### 【課題2】

タイプⅠの「量と測定」の領域で、複合図形の面積を求める場合、どの辺の長さが必要なのか、またその長さをどうやって出すのか理解できていない児童が多かった。(通過率45.5% 誤答率36.4% 無答率18.2%)

## 重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

### 【課題1】

「図形」領域の学習を苦手とする児童が多い。算数的活動をしっかりと取り入れ、用具を正しく使って作図することで様々な定義や性質を理解させていく。また、作図方法等だけを理解するのではなく、その方法にはどんな意味があるのかを考えさせる授業に取り組む。

### 【課題2】

複雑な図形や立体をどう見ればよいかわからない児童が多い。実物でしっかりと把握させながら、図に表すことに慣れさせていく。また、ノート指導を充実させ、どこが同じ長さになるかなど、自分で記入できるようにしていく。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	5・6年小テスト (図形の定理を確かめる問題)	1・2年小テスト (図形を仲間分けする問題)	3・4年小テスト (図形の性質を確かめる問題)	4年 H28 基礎基本 5年 H28 全国学力	4年 H29 基礎基本 5年 H29 全国学力	1・2年小テスト (図形を仲間分けする問題)	5・6年小テスト (図形の定理を確かめる問題)
目標値	80・0%	80・0%	80・0%	80・0%	80・0%	85・0%	85・0%
実施後数値							

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				1～6年 単元テスト		4年 H28 基礎基本 5年 H28 全国学力	4年 H29 基礎基本 5年 H29 全国学力
目標値				85・0%		80・0%	80・0%
実施後数値							

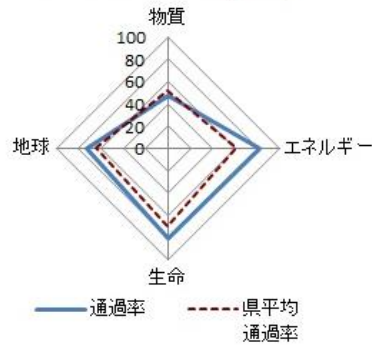
# 指導方法等の改善計画について〔理科〕

東広島市立板城西小学校

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 70.9%, 県 61.7%)

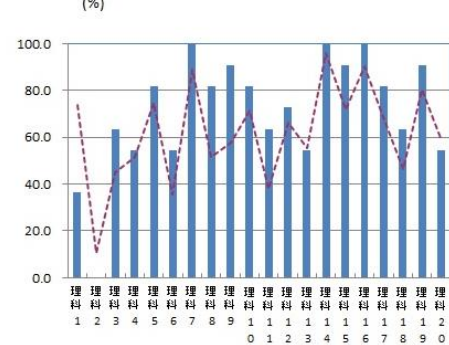
領域別平均通過率

領域別平均通過率(理科)



設問ごとの平均通過率

設問ごとの平均通過率(理科)



本年度の結果について

- 全体的な傾向について  
理科の結果において、タイプⅠは80.2%、タイプⅡは59.6%の通過率となっている。県平均と比べると、基礎・基本、活用とも通過率は上回っている。しかし、「物質」の領域の「空気と水の体積の変化」に関する設問の通過率が著しく低くなっている。
- 昨年度の課題への取組と成果(課題)  
昨年度は実験の結果から考えられることを記述することに大きな課題があった。そのため、自分の考えを書く活動を多く取り入れ、説明する力をつけていくようにした。その結果、記述問題での通過率がアップしている。

## 重点課題

### 【課題1】

「物質」の領域、「水や空気を圧したときの体積の変化」に関わる問題の通過率が圧倒的に低かった。基礎的な理解ができていないこと、また、仮説を検証するためにどんな実験が必要か考えることが難しかった。  
(適切な検証方法 通過率0%)

### 【課題2】

「地球」の領域、「結露」の理解ができていなかった。  
(通過率54.5% 誤答率45.5%)

## 重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

### 【課題1】

実験を実地体験としてこなすのではなく、課題→仮説→実験方法→実験→結果→考察という理科の学習の進め方をしっかり把握させる。また、これまでの既習事項から、自分の力で仮説をたてたり、実験方法を考えたり、考察したりする授業を進めていく。

### 【課題2】

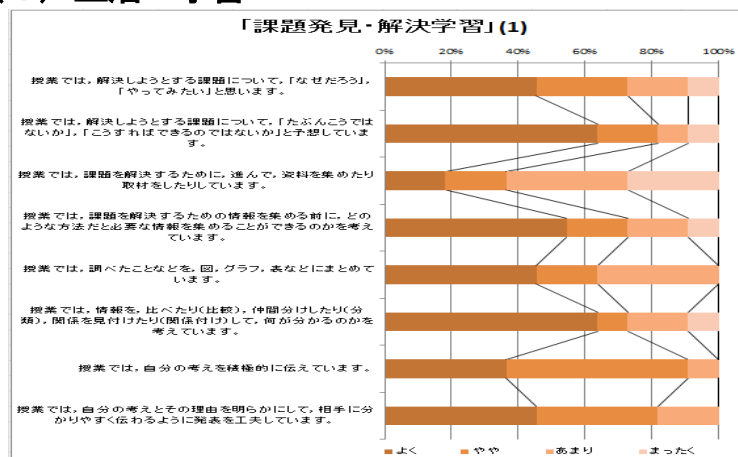
学習したことを生活に広げ、身近なものとの結びつきを考えさせるようにする。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				4年 単元テスト	4・5・6年 フォローアップシート	4年 H28 基礎基本 5年 H28 全国学力	4年 H29 基礎・基本
目標値				85.0%	85.0%	80.0%	85.0%
実施後数値							

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法					4年 単元テスト	4年 H28 基礎基本 5年 H28 全国学力	4年 H29 基礎・基本
目標値					85.0%	80.0%	85.0%
実施後数値							

## 質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：児童質問紙調査）

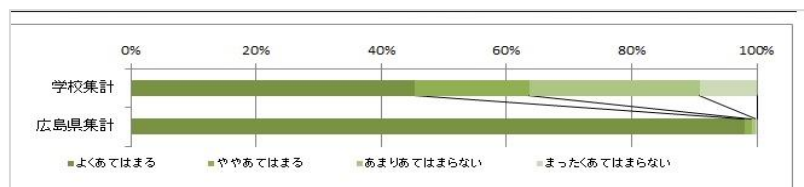
### (1) 生活・学習



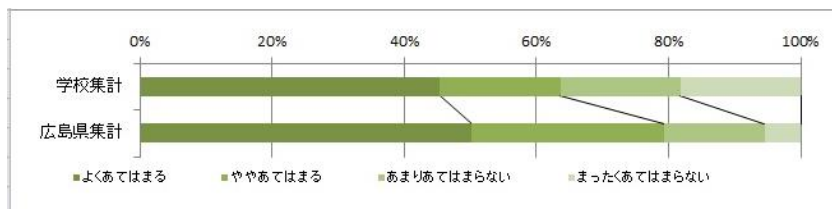
児童の回答についての課題 (現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
<p>・「授業では、課題を解決するために、進んで、資料を集めたり取材をしたりしています。」の問いに対し、「あてはまる」と答えた児童が36.4%、「あてはまらない」と答えた児童が63.6%であった。実際に授業の中で、課題を解決するためには何が必要か考えられない、見通しをもちにくい児童が多い。</p>	<p>・算数科の授業の中で、見通しをもつ場面を設定し、課題解決をするためには、これまで学習したどんな既習事項や方法が必要か、考えるようにさせる。</p> <p>・考える時間を充実させる学習の単元を設定し、自分で資料を集めたり取材をしたりする学習方法に取り組ませる。</p>	3 4 5 6	70%	児童アンケート	2月		

### (2) 教科

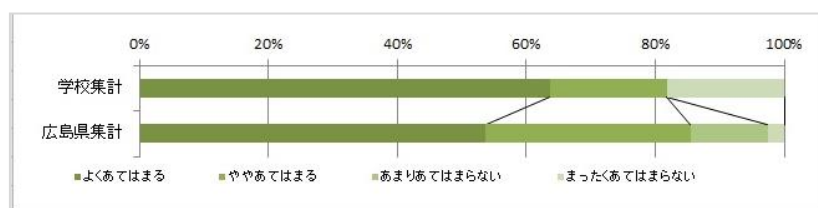
国語の授業では、目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしています。



算数の授業で学んだことを、ふだんの生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしています。



理科の授業では、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったか考えています。



	児童の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	<p>「国語の授業では、目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしています。」にあまゝあてはまらないと回答した児童が27%。まったくあてはまないと回答した児童が9.1%。</p>	<p>自分の意見を述べるために、その根拠となる資料を自分でさがすという活動を経験させていく。また、学習したことを活用して、特別活動や総合的な学習の時間等でも自分の考えをまとめ発表する内容を取り入れていく。</p>	4 5 6	肯定 75%	児童アンケート	2月		
算数	<p>「算数の授業で学んだことを、ふだんの生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしています。」にあてはまると回答した児童が63.7%。あてはまないと回答した児童が36.3%。</p>	<p>単元の流れを児童と考える中で、つきたい力を明確にし、単元末での児童の姿をはっきりさせる。その中で、身近な生活経験を取り入れた単元を設定し、学習したことを日常生活で使えるようにしていく。</p>	1 2 3 4 5 6	肯定 75%	児童アンケート	2月		
理科	<p>「理科の授業では、観察や実験から、どのようなことが分かったか考えています。」にまったくあてはまないと回答した児童が18.2%。</p>	<p>理科の学習の進め方を定着させ、実験・観察の結果からまとめさせたり考察させたりしていく。またそのときに、考えられることをまず自分の言葉で表すことに取り組んでいく。</p>	3 4 5 6	肯定 80%	児童アンケート	2月		